

コロナに揺れた心象 みずみずしい感性で 明浄学院高「家隆忌」

天王寺区



明浄学院高(阿倍野区文の里3丁目、渡辺雅彦校長)は2日、鎌倉時代の歌人・



生徒の歌を詠む代表の生徒



藤原家隆の功績と遺徳をしのび、生徒が詠んだ歌をささげる「家隆忌」を天王寺区夕陽丘町の「家隆塚」で行った。夏の日差しの下、季

節の移り変わりや新型コロナウイルス禍に揺れた心象がみずみずしい感性で詠み上げた。家隆忌は1957年に始まり、今年で64回目を迎えた伝統行事。同校では和歌や俳句を教育に取り入れており、新年の宮中行事「歌会始」にも過去入選している。秋には俳人・松尾芭蕉をしのぶ「芭蕉忌」も行っ

ている。頭彰碑と五輪塔に向かい、献茶や献香、家隆を顕彰する祭文、家隆の和歌3首を詠む朗詠に続き、生徒

の代表が各学年から選抜された生徒と教職員が詠んだ和歌52首を詠み上げて家隆をしのんだ。渡辺校長は「皆さんの歌

が詠まれ、家隆さんも喜んでくれているだろう。家隆忌を由緒正しき歴史に触れる機会にしてほしい」と講評した。(光長いづみ)

鉄道工事の歩み紹介

京都鉄博で写真展



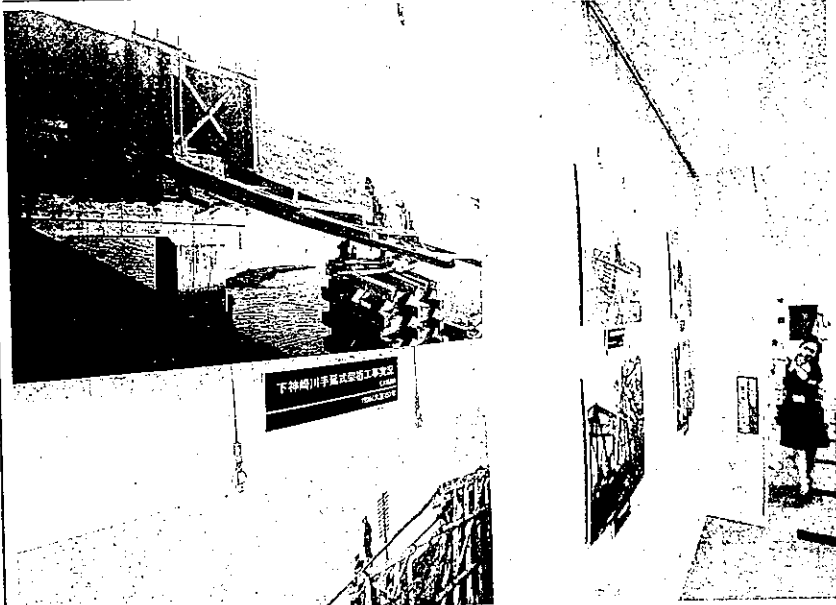
京都鉄道博物館(京都市下京区)で、大正から昭和の時代にかけて行われた、鉄道工事の写真を集めた収蔵写真展「大正・昭和時代の鉄道工事」が開かれている。9月3日まで。

1872年に日本最初の鉄道が開業してから、間もなく150年の節目を迎えるのを前に、開業当時の鉄道工事の実態を知ってもらおうと企画した。

会場には写真パネル22点が展示されている。現在のJR東海道線の大阪―尼崎間で、1926(大正15)

年に撮影された下神崎川の

橋梁架設工事の様子や、59(昭和34)年に大阪駅で撮影された、大阪環状線の線路やホームの工事の写真など、来館者は足を止めて見入っている。(足立篤史)



鉄道工事の歩みを伝える写真が並ぶ会場